

令和3年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和4年3月25日

法人名

園名

和順会

むさしこども園

まとめ

全体平均

3.67

第2章第2節 乳児期の園児の保育	園目標の『すこやかな体 ゆたかな心を育てる』を基盤とした保育が実践できたと思う。乳児期の個々の関わり、発達に応じた園生活・あそびを提供していくことを大切に今後も続けていきたい。個々に合わせた見取りや援助を心がけ、そこから、信頼関係を築き子どもが自ら「遊びたい、やってみよう」と自然と思えるような環境作りや遊びが行えるようにしていきたい。一人ひとりを大切にしたい保育を行うことが出来、ゆったりとした関わりができた。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	この時期は心身の発達がたくさん見られる時であり、発達のスピードには個人差もあるので、子どもたち一人ひとりに応じた様々な援助が必要である。子どもたちの色々な思いを言葉やしぐさ、表情から丁寧に汲み取り、受け入れながら、「自分でしたい」という気持ちを尊重して、その発達や生活習慣の確立を見守ったり支えていくようにする。 子どもたちもマスク生活に慣れ、大事なことをいう時には保育者もマスクを外して話すなど工夫も取り入れてきた。生活習慣の確率ができ始めると言葉も増え楽しそうに会話する姿も見られた。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	3つの柱、5領域、10の姿の様々な用語があるが、自分の頭の中で整理をして、人に伝えられるようになりたい。年長児になると、10の姿を強く言われるが、5領域の保育内容を丁寧に、10の視点を持って子どもの発達や学びを見とれるようになりたい。特に環境の評価が低かった。環境を通じた保育が大切だと言われているので、室内・室外の保育環境を整え、登園してから「〇〇の遊びをしたい・昨日の続きをしよう」と、園児が思えるように保育をしたい。保育教諭と子どもの信頼関係がなければ保育は成り立たないと思った。信頼関係の基、子どもの声に耳を傾け、観察することによって、今、何に興味を示し、何が必要か自然と浮かび出てくる。今の自分の保育を振り返り、今以上に邁進していけるよう学ぶ姿勢を忘れずに頑張っていきたい。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	今は自分一人で頑張る保育ではなく、チームのみならず協力するチーム保育が主流となっていて、一人で抱え込まずに色々な視点からフォロー出来ることは良い面だが、チームで役割分担することの難しさも感じた。一番は子どものために、職員同士も歩み寄る努力が必要だと思う。園児が主体的に学ぶために、保育者という環境の一つがより大切な存在だと思う。園児の一人一人の可能性をしっかりと伸ばせるよう、様々な活動から自分の好きなこと得意なことを見つけられるように関わってきたい。
第3章 健康及び安全	保護者に意見を押し付けず、保育教諭としてアドバイスや相談にのり、最終決定は保護者自身が出来るように援助することを大切にしていきたい。ここでは保護者、そして職員同士の信頼関係の大切さを改めて感じた。良い保育をするためには、良い関係性を築く努力が必要だと思う。1年を通して、門の施錠を心掛け、安全管理を行った。また昼寝の時にルクミーと午睡時も異常がないか気にかけている。食育コンテストに参加したことは自信につながった。言葉の使い方や子どもへのアプローチなどまだまだ課題が多いが来年度も参加したい。
第4章 子育ての支援	相談に来たくても来れない家庭。家では困りがないが園では困りがある家庭。またその逆などあるので相談しやすい雰囲気づくりをして行きたい。コロナ禍だけれど、こども園での子育て支援センターの活動や日曜広場“さんさん”、子育て応援「なっちゃんの家」など子育て支援が全体的に充実してきた。子育て支援センターは、コロナ禍で活動休止や人数制限がある中で、たくさんの親子に利用してもらうことができた。こだま会さんなど地域の方々に協力してもらって子育て支援の活動ができた。
第5章 職員の資質向上	コロナの影響で、オンラインでの研修が大半となった。オンライン研修の利点を生かし、積極的にオンライン研修に参加しました。園内研修では外部講師も呼びましたが、職員同士が話し合いをする研修を多く取り入れました。ミドル・サブリーダー研修を行い、トップダウンからボトムアップの組織へと改編し、チームで保育を行い、保育の質の向上を目指します。来年度も引き続き、内外研修を積極的に受講し、「すこやかな体とゆたかな心を育てる」の保育目標に向かって保育の質の向上を図ります。
総合	今年度もコロナに影響を受けた1年でした。保育に関しては、例年通りの行事はできないが、子どもがしたい取組を大切に、子ども主体の保育を展開する事ができた。年長組の社会見学では、自分たちで行き先から決めていく事ができ、「自ら考え、自ら決めて、実行できたことが、子どもたちの達成感からの自信につながることを改めて実感できました。コロナにより、何のための保育なのかを考えるきっかけとなりました。また、子育て支援の取組みは、コロナに負けず、1年を通して、センターを開所できたことが良かったです。コロナで子育て家庭が孤立化し、行き場を失っている現状は明らかです。なお「なっちゃんの家」の開設は、子育て家庭への希望と考えています。来年度も子ども主体の保育と地域子育て支援を深めていきたいです。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	3.93
「3歳未満児保育」	32	3.91
「3歳以上児保育」	53	3.70
「教育保育の配慮事項」	16	4.00
「健康・安全」	29	3.59
「子育ての支援」	18	3.06
「職員の資質向上」	9	3.22
計	172	3.67

データグラフ

